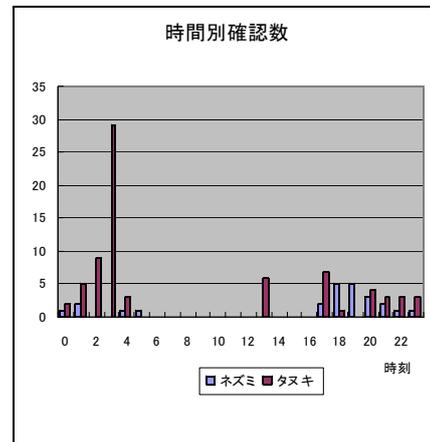


白神八甲田緑の回廊モニタリング (センサーカメラによる)

期 間 2007年10月25日～29日、11月5日～9日

箇 所 西目屋村砂子瀬 湯ノ沢国有林 118林班 ろ3小班ほか (カメラ4台)

確 認 種	確認回数
タヌキ	75
ネズミ (アカネズミ、ヒメネズミ)	24
ハシブトガラス	5
ルリビタキ	1



ホンドタヌキ



ヒメネズミ



アカネズミ

夕方と未明に活動しています。



ホンドテン (成獣)



ホンドテン (幼獣)

(テンは昨年度モニタリング時に撮影)

希少野生動植物種等の調査

イヌワシの生息状況

白神山地青森県側に生息するイヌワシは4ペア。
うち未確認の1営巣地を今年度確認。
本年度の繁殖成功は0/4。
秋田側では繁殖成功確認1。



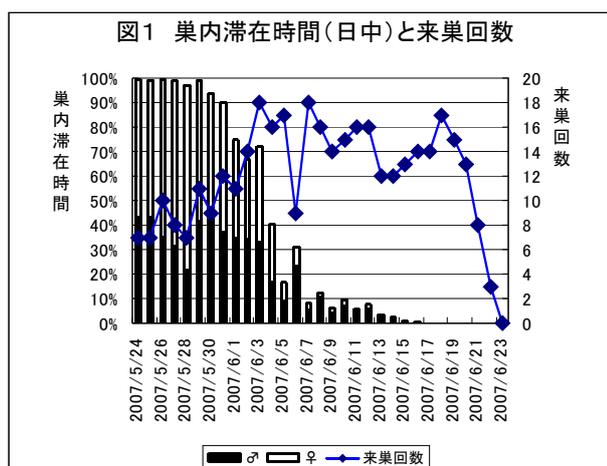
クマタカの生息状況

白神山地での生息数は少なくないが
その全体像は不明。
本年度、複数箇所で見つかった。



クマゲラの繁殖確認 (監視カメラによる)

5月26日	第一雛孵化
6月21日	第一雛巣立
6月22日	第二雛巣立
6月23日	第三雛巣立



希少植物の生育確認



ツガルミセバヤ



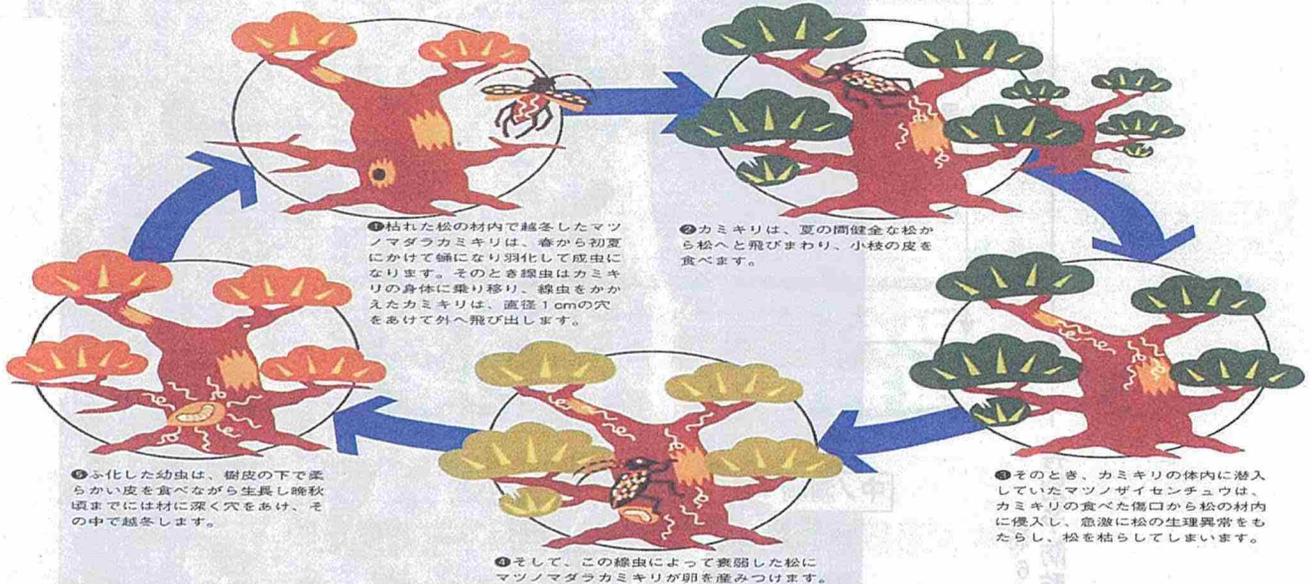
トガクシショウマ



エチゴトラノオ

松くい虫被害とは!!

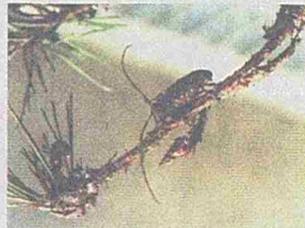
松枯れの犯人はマツノザイセンチュウという線虫です。
 このマツノザイセンチュウは1mmにも満たない線虫です。
 その線虫を健全な松に媒介し、被害をまん延させるのが体長3cm程のマツノマダラカミキリという昆虫です。
 つまり線虫が松枯れの犯人(病原体)で、カミキリがその「運び屋」なのです。
 このため松を守るには病原体であるマツノザイセンチュウと運び屋のマツノマダラカミキリとの関係をどこかで断ち切ることが必要なのです。



病原体マツノザイセンチュウ



病原体を運ぶ虫マツノマダラカミキリ



※ 日本で初めて確認されたのは、明治38年の長崎
 ※ 国内で松くい虫被害がないのは、本県と北海道だけ

※ 松くい虫被害が発生するには、マツが生育していること。
 運び屋であるマツノマダラカミキリが生息していること。
 マツノザイセンチュウが生息していること。
 この三つの条件が必要である。

1. 西北地域県民局(西管内)の松類資源表 単位:ha

	深浦町	鱒ヶ沢町	つがる市	計
アカマツ	42	319	9	370
クロマツ	1,031	231	1,999	3,261
計	1,073	550	2,008	3,631

2. 西北地域県民局管内におけるマツノマダラカミキリの捕獲状況 単位:頭

	H7	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	計
雄		2		5	4				2		13
雌	1		5	4	4	2	2	7	5		30
計	1	2	5	9	8	2	2	7	7	0	43

マツノザイセンチュウ病(通称松くい虫被害)を媒介するマツノマダラカミキリの生息状況調査は昭和56年度から実施されてきたが、平成7年度に初めてマツノマダラカミキリが1頭管内で捕獲され、平成11年度からは毎年度捕獲されているが、マツノザイセンチュウは確認されていない。

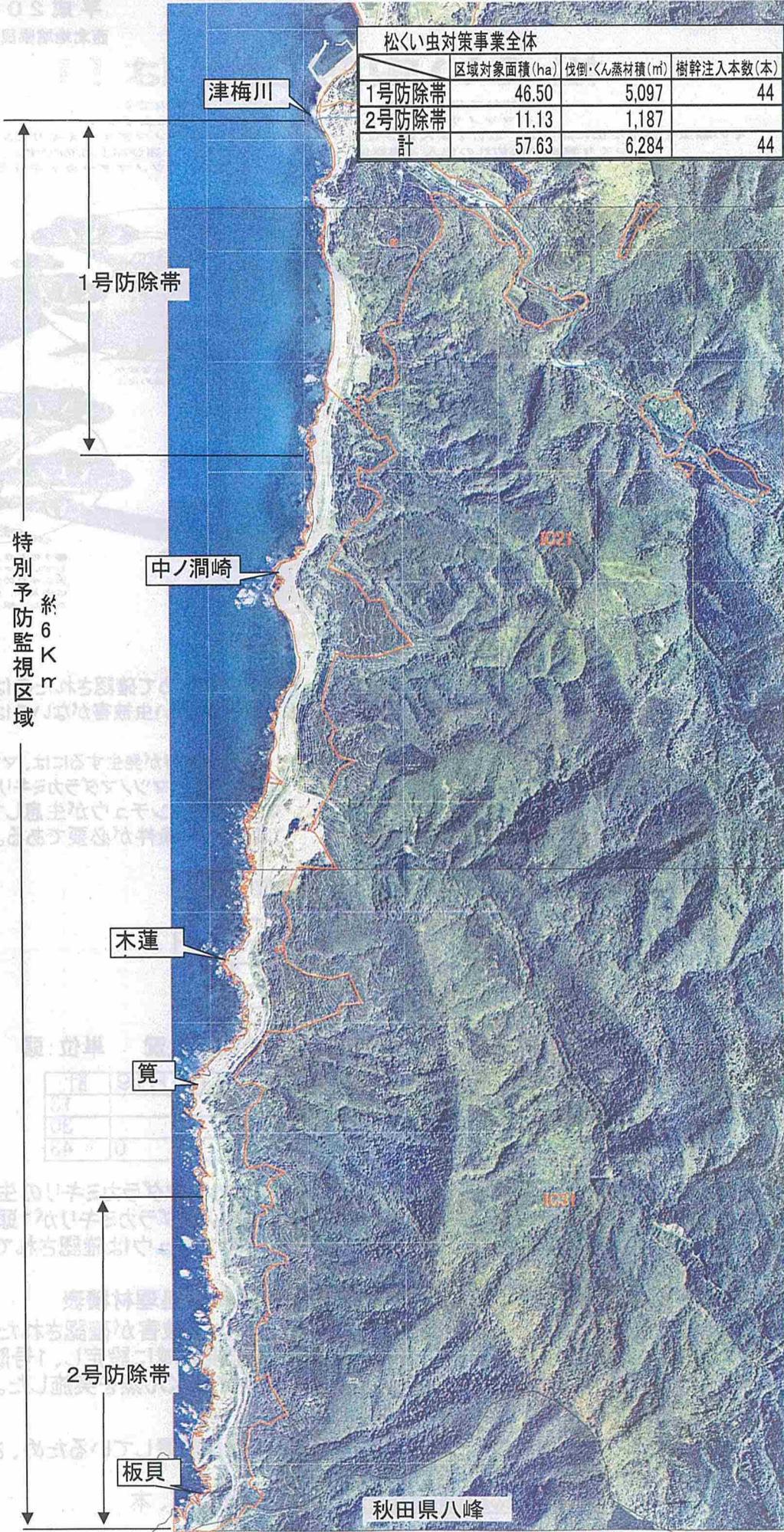
3. 松くい虫被害防止緊急対策強化事業における伐倒・くん蒸処理材積表

平成18年7月県境から250mの秋田県内において、松くい虫被害が確認された。県では、被害防止のため県境から以北6kmを特別予防監視区域に設定し、1号防除帯(津梅川以南2km)及び2号防除帯(県境から1km以北)内のマツの伐倒・くん蒸を実施した。(松くい虫被害条件の一つを除去した。)

2号防除帯の幅1kmについては、秋田県においても1kmを設置しているため、あわせて2kmとし平成18年度実施事業一覧表

	区域対象面積	伐倒・くん蒸材積	樹幹注入本数	単位:ha、m ³ 、本
1号防除帯	46.50	5,097	44	
2号防除帯	11.13	1,187		
計	57.63	6,284	44	

松くい虫対策事業全体			
	区域対象面積 (ha)	伐倒・くん蒸材積 (m ³)	樹幹注入本数 (本)
1号防除帯	46.50	5,097	44
2号防除帯	11.13	1,187	
計	57.63	6,284	44



● 被害発生

2 平成19年度

1) 松くい虫関連事業量及び事業費

区 分		事業量	事業費(円)	摘 要
マツノマダラカミキリ生息調査		15箇所	270,900	マツノマダラカミキリ捕獲 0頭
特別監視区域外枯損木等処理		118.85 m³	2,187,150	伐倒・くん蒸 22箇所、関係者 21名
林内環境整理作業		16.64ha	2,764,650	除伐 16.64ha、つる切 5.78ha(8箇所)
天敵生物相の維持・利用		10箇所	35,000	キツツキ類の営巣箱の設置
特別監視区域	松林保全現況調査	50.24ha	999,800	50.24ha 関係者 39名(県外 22名、県内 17名)
	1号防除帯	5.23 t	810,000	ビニールの撤去作業(延べ 81名、地元 32名、その他 49名)
	2号防除帯	1.91 t	503,544	産業廃棄物処理
	小計		300,000	ビニールの撤去作業(延べ 30名、その他 30名)
計			143,884	産業廃棄物処理
			2,757,228	伐倒・くん蒸 57.63ha、関係者 50名(県外 11名、県内 39名)
			8,014,928	

2) 松林保全現況調査

- 今後の松くい虫予防対策に対応するため、特別予防監視区域内(3km)におけるマツ類の生育状況を地番毎に調査した。その結果

筆数(筆)	区域面積(ha)	成立本数(本)	総材積(m³)
71	50.24	30,072	8,301.87

3) 伐採跡地の森林復旧

- 平成19年4月12日に地元に対して森林復旧について説明会し、後日に希望者を募集した。
- 希望により樹種決定したが、苗木の供給不足及び植栽時期により平成19年春、秋及び平成20年春植となった。

時期	樹種	植 栽 樹 種				計
		ケヤキ	ナラ	スギ	カツラ	
H19春	本数(本)	4,230	990	6,875		12,095
	面積(ha)	1.41	0.33	2.75		4.49
H19秋	本数(本)	13,100		900	3,625	17,625
	面積(ha)	4.90		0.30	1.45	6.65
H20春	本数(本)	2,760	1,440			4,200
	面積(ha)	0.92	0.48			1.40
計	本数(本)	20,090	2,430	7,775	3,625	33,920
	面積(ha)	7.23	0.81	3.05	1.45	12.54

4) ヘリコプターによる巡視

- 平成19年6月21日県防災ヘリコプターによる深浦町蘆作地区から大間越地区の上空からの調査を実施。ウエスパ椿山、沢辺地区(いずれも落雷)を発見し、伐倒・くん蒸処理を実施した。

今後のスケジュール

- 1 平成20年 6月
第3回協議会及び現地視察
(白神山地周辺の自然再生活動必要箇所、森林環境教育実施箇所他の視察等に基づく協議会の開催)

- 2 平成21年 2月
第4回「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」開催
(平成21年度自然再生活動等の提案・協議)